

「目標達成に向かって組織的に取り組む『芯の通った学校組織』」推進プランに基づく
 平成25～27年度間 市町村体力向上アクションプラン(平成26年度版)

(別紙様式2)

(国東市)教育委員会

①体力の状況

ア 体力・運動能力調査結果 (H25)

調査項目	握力		上体起こし		長座体前屈		反復横とび		20mシャトルラン		50m走		立ち幅跳び		ボール投げ	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
小1	◎	◎	◎	◎		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小2	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小3			◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小4		◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小5		●	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小6		◎		○								○		○		◎
中1		○					◎	◎					○			
中2				○		◎	◎	◎		○				○		○
中3		○					○									◎

※1) ◎は、国東市の平均が全国平均と県平均のいずれも上回っているもの
 ※2) ○は、国東市の平均が県平均のみ上回っているもの
 ※3) ●は、国東市の平均が全国平均のみ上回っているもの

イ 生活習慣等調査 (H25)

調査項目	小学生		中学生		全体		
	県	市	県	市	県	市	
運動への愛好度	好き	64	64	55	59	60	61
運動・スポーツの実施状況	ほとんど毎日する(週3日以上)	44	58	72	83	57	70
	しない	10	8	12	5	11	6
部活動・スポーツ少年団や地域スポーツクラブへの所属状況		57	57	75	87	65	71
朝食の有無	朝食を毎日食べる	86	86	84	85	85	85
1日の睡眠時間	8時間以上	55	62	16	17	37	41
	6時間未満	8	5	15	15	11	9

※ 黄色は、県平均を上回っているもの(同率を含む)

ウ 各市町村の児童生徒の特徴的な様子

- 市教委主催の陸上教室、陸上記録会、リレーカーニバル、水泳教室、水泳記録会等のスポーツイベントに参加する児童の割合は2～3%であり、積極的に運動・スポーツを楽しもうとする意欲に乏しい面がある。
- 部活動やスポーツ少年団に入り、熱心にスポーツに取り組む児童生徒がいる反面、ほとんど運動・スポーツをしない児童生徒が1割弱いる。

エ 体力向上に係る課題

○児童生徒の課題

- 体力・運動能力調査において、県平均を上回っている調査項目の割合は58%だが、全国平均を上回っている調査項目の割合が42%で、全国レベルには届いていない。特に中学校は、全国平均を上回る調査項目の割合が10%である。
- 運動をほとんど毎日する小学生の割合(58%)が中学生の割合(83%)を下回っており、家縄が定着できていない。
- 運動をまったくしない小学生の割合(8%)が、中学生の割合(5%)を上回っている。

○体力向上に関して抱える組織的な課題

- 全国平均を上回る調査項目の割合について、学校間格差が大きい。
 小学校:69ポイント(最高90% 最低21%) 中学校:31ポイント(最高35% 最低4%)
- 中学校では、体力向上の取組が体育教師のみになり、全教職員による組織的な取組になりにくい。
- 中学校において、一校一実践の内容が体力向上につながるものになりにくい。また、実施率の低い中学校ほど体力向上が図れていない。
- 家縄実施率50%未満の小学校が73%(8/11)であり、定着できていない。
- 小学生の柔軟性に課題がある。一校一実践・基礎体力づくりトレーニングにおいて、柔軟性を高める活動を取り入れていく必要がある。

②目標

ア 児童生徒の体力向上に係る目標(平成27年度まで)

- 体力・運動能力調査において、全国平均以上である調査項目の割合を60%以上にする。(H25:42%)
- 運動好きな児童生徒の割合を65%以上にする。(H25:61%)
- 運動・スポーツをしない児童生徒の割合を5%以下にする(H25:6%)と同時に、運動・スポーツをほとんど毎日(週3日以上)する児童生徒の割合を80%以上にする。(H25:70%)

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための目標

- 児童生徒がどの学校どの学級に所属していても、体力をつけることができるようにするため、体力の学校間格差を小学校は40ポイント、中学校は20ポイント以内に縮める。
- 中学校において、管理職・体育教師が中心となり、組織的に体力向上に取り組む、一校一実践を充実し、基礎体力づくりトレーニングを含め実施率を小学校・中学校ともに100%にする。
- 学校が家庭や地域と連携しながら、体力づくりの取組を進めていき、家縄の実施率を80%にする。
- 小学校において、一校一実践・基礎体力づくりトレーニングにて、柔軟性を高める運動を取り入れ、長座体前屈を全国平均まで高める。

③行動計画

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校における行動

《市教委》

- 各学校への体力向上プランの作成依頼及び必要に応じて内容協議
- 学期ごとの体力向上アクションプランの取組状況の報告を各学校に求める。
- 家庭や地域における運動習慣の企画立案
 ・全小学生の家庭において、縄跳びタイム(平日10分間)の設定・実施
 ・毎週水曜日午後8時から全市一斉親子(保護者と子ども)縄跳びタイム(10分間)の設定・実施
 ・ケーブルテレビによる家縄の輪を広げる番組作成
 ・一年間継続して実施した児童の表彰

《学校》

- 今年度の評価を行った上で、児童生徒の実態に応じた内容で、通年にわたる休み時間等を活用した体力向上に向けた取組(一校一実践)の改善・実施(週3日以上)
- 今年度の評価を行った上で、すべての体育の授業の導入部分で、各学校の児童生徒の実態に応じた内容の基礎体力づくりトレーニング時間の改善・実施
- 家庭や地域における運動習慣確立の推進
 ・全小学生の家庭において、縄跳びタイム(毎日10分間)・一斉親子(保護者と子ども)縄跳びタイム(毎週水曜日午後8時から)の推進
 ・全学的に保護者が送り迎えをしない自力登下校の促進
 ・協育ネットワークによる体育の授業・部活動における外部指導者の積極的な活用
 ・総合型地域スポーツクラブ・地域のスポーツイベント等への積極的な参加促進

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校における行動

《市教委》

- 全小・中学校の体育授業力の向上を図るため、小学校2校に体育専科教員を配置、中学校1校を体力向上推進校に指定し、配置校、推進校及び訪問校における取組の推進及び授業公開(各小・中学校から1名以上の参加)・実践発表の実施
- 全小・中学校の体育授業力の向上や充実した体力向上に向けた取組、さらには系統的な指導に資するため、市全体の体力に係る実態についての説明・優良事例の紹介等の内容による年間2回(5月・2月)の体育主任会議の実施

《学校》

- 体力向上に向けた取組の充実を図るための体育環境の工夫・改善
- 一校一実践・基礎体力づくりトレーニング等について、体育主任が各学校の体力・運動能力調査結果等による児童生徒の実態に即した内容で企画・立案し、校内の体育保健組織や運営委員会において審議し決定した後、全教職員による実施

④工程(推進スケジュール)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
市「体力向上アクションプラン」の公表・学校「体力向上アクションプラン」の公表→H26からは達成状況も公表		
一校一実践の開始	一校一実践の工夫・改善	一校一実践の日常化
体育授業での基礎体力づくりトレーニング開始	体育授業での基礎体力づくりトレーニング内容の見直し検討	体育授業での基礎体力づくりトレーニングの確立
体育主任会議の開催(教職員の意識改革)	体育主任会議の開催(組織的取組の推進)	体育主任会議の開催(組織的取組の定着)
家庭での縄跳びタイムの取組開始	家庭での縄跳びタイムの工夫・改善	家庭での縄跳びタイムの日常化
指標による課題と成果の把握		
次年度の計画		

⑤成果指標(達成指標及び取組指標)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
達成指標			
○体力・運動能力調査において、全国平均以上である調査項目の割合	30%【達成】 (H25:42%)	50%	60%
○運動好きな児童生徒の割合	59%【達成】 (H25:61%)	62%	65%
○運動・スポーツをほとんどしない児童生徒の割合	8%【達成】 (H25:6%)	5% (←7%)	4% (←5%)
○運動・スポーツを毎日(週3日以上)する児童生徒の割合	70%【達成】 (H25:70%)	75%	80%
取組指標			
○一校一実践(全学年週3日以上)実施率	80%【達成】 (H25:80%)	90%	100%
○体育授業での基礎体力づくりトレーニング実施率	90%【達成】 (H25:100%)	100% (←95%)	100%
○小学生の家庭における縄跳びタイム(家縄)実施率	75%【未達成】 (H25:50%)	75% (←85%)	80% (←95%)